

平成 28 年度 奈良県がん診療連携協議会の取組について

奈良県がん診療連携協議会

開催日：平成 28 年 7 月 21 日，平成 29 年 3 月 13 日

委 員：都道府県がん診療連携拠点病院：奈良県立医科大学附属病院

地域がん診療連携拠点病院：奈良県総合医療センター

市立奈良病院

近畿大学医学部奈良病院

天理よろづ相談所病院

奈良県がん診療連携支援病院：国保中央病院、済生会中和病院

大和高田市立病院

奈良県医療政策部保健予防課

南奈良総合医療センター

- 平成 29 年度体制について
南奈良総合医療センターが地域がん診療病院として新規指定
- 第 9 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会（国立がん研究センター）
概要報告
第 3 期がん対策推進基本計画の策定に向け、がん診療連携拠点病院においては、がん診療連携拠点病院を中心としたネットワークの構築等による連携の強化や人材の育成及び人材の確保が重要な課題となる。
- 県内 PDCA サイクルの評価（実地調査）

相談支援分科会

- 相談支援分科会の開催（年 5 回）
 - 就労相談の実施
各医療機関で社会保険労務士による就労相談の実施
長期療養者支援事業（奈良医大）：ハローワーク職員による就職支援
 - 県内の相談員のスキルアップ
がん相談員従事者研修会：県内相談員、看護師等 37 名が参加
患者会や患者団体が開催する交流会・集会などに積極的に参加
- 来年度も引き続き、就職支援の充実や相談員のスキルアップに取り組む。

緩和ケア分科会

- 奈良県内の医師のための緩和ケア研修会の開催
拠点病院および支援病院にて、計9回開催（252名の医師が受講）
 - 緩和ケアチーム研修会の開催
平成28年10月23日（日）奈良医大
県内8施設から31名が参加。
 - 緩和ケアの普及啓発（県民公開講座等）の開催
各拠点病院において県民・市民公開講座を実施（計6回）
平成29年3月23日（木）13:30～ 市立奈良病院 2階会議室5
 - がん性疼痛管理を中心として緩和ケアに関する研修会
各拠点病院において研修会、研究会や症例検討会等を実施。
- それぞれ、来年度も継続開催予定

化学療法分科会

- 多地点 Web カンファレンス
拠点病院間におけるがん化学療法のスキルアップと均てん化を目的とした、Web カンファレンスを6回開催（予定含む）。
 - がん化学療法医療チーム研修会の開催
平成28年11月27日（日）奈良医大 厳櫃会館
県内5施設から22名参加。
- それぞれ、来年度も継続開催予定

放射線療法分科会

- 平成28年度新設
【分科会の目的】
県内の医療機関における放射線治療状況等に関する情報を共有して、連携体制を強化し、県民の方により適切ながん診療を提供すること。
- 放射線療法分科会：平成29年3月2日（木）メール会議を開催

院内がん登録分科会

- 院内がん登録分科会（平成 29 年 3 月予定）
都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会報告
情報提供等
- がん登録研修会の開催（年 2 回）
平成 28 年 9 月 10 日：県内がん登録担当者 24 名が参加
平成 29 年 2 月 25 日：県内がん登録担当者 24 名が参加
来年度も継続開催予定。

地域連携分科会

- 「パス分科会」を「地域連携分科会」と名称変更。
- がん患者さんおよび家族に対し、切れ目のない地域連携による質の高い、安心できるがん医療を提供することを目的に、がん地域連携クリティカルパスの運用の推進を行う。
- 平成 29 年度より地域連携分科会を開催し、がん地域連携クリティカルパスの見直しや活用方法の検討を進める。

平成28年度 奈良県がん診療連携協議会（緩和ケア分科会） 取組報告

◆がん性疼痛管理を中心とした緩和ケアに関する研修会（原則必須）

医療機関名	事業内容
奈良医大	・H28.11.20「在宅緩和ケア地域連携研修会」 在宅療養支援診療所の医師や看護師等に対し、「エンドオブライフ・ケア」をテーマに、がん緩和ケアに関する知識と技術の研修を行った。
奈総医セ	・地域の医療従事者や福祉職らと共にごん患者の意思決定や地域連携の問題を検討する症例検討会の開催。 ・H28.5.12、H28.7.7、H28.11.10 は症例検討会、H29.3.16 は研修会プラス症例検討会を開催予定。
天理よろづ	・H29.3.1 在宅緩和ケア地域連携研修会 緩和ケアチームと在宅緩和ケアを専門とする医師等による、緩和ケア及び病診連携に関する研修会を開催する。
近大奈良	・二次医療圏内医療従事者を対象に、生駒緩和医療研究会（年3回：H28.7.7、H28.11.10、H29.2.23）を開催
市立奈良	・地域の医療従事者を対象にスピチュアルペインを学ぶ機会として、臨床宗教家を講師に招き研修会を開催（H29.2.23開催）
	・当院緩和ケアチームと在宅緩和ケアを専門とする医師等による緩和ケアに関するスムーズな連携と疼痛管理を中心とした研修会の実施（H29.3.30開催予定）

◆緩和ケアの普及啓発（県民公開講座等）について（必須要件）

医療機関名	事業内容
奈良医大	・H29.2.12「病気とうまく付き合うために～知って得する緩和ケア～」 南奈良総合医療センターにて、緩和ケアに関する県民公開講座を開催（参加者48名） 共催：南奈良総合医療センター、市立奈良病院
奈総医セ	・H29.2.4に県民公開講座を開催。 一般の方を対象とした、治療期からの緩和ケア、がん治療方法等の講演を行い、がんに対する普及啓発及び情報提供を行う。
天理よろづ	・H28.11.16「がんの痛みと緩和ケア」患者・家族を対象に講演会を開催（参加者12名） ・H28.11.26「痛みに寄り添う」一般市民対象に公開講座を開催（参加者81名）
近大奈良	・一般市民を対象に市民公開講座を開催（H28.7.9実施）
市立奈良	・地域住民等を対象として緩和ケアに関する公開講座を開催。（H29.3.23開催予定）

◆当該都道府県においてがん診療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師・薬剤師・看護師等に対する研修の実施について（必須要件）〔奈良医大のみ〕

医療機関名	事業内容
奈良医大	・県内がん診療連携拠点病院の緩和ケアチームに対する奈良県緩和ケアチーム研修会を開催（H28.10.23）

平成 28 年度 多地点 web カンファレンス開催報告

開催実績

第1回	5月26日(木)	妊娠の経過とともに急激に発症した両側卵巣腫瘍の1例 【奈良県立医科大学附属病院】	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良医大附属病院 ・奈良県総合医療センター ・市立奈良病院 ・天理よろづ相談所病院 ・済生会中和病院 ・大和高田市立病院
第2回	8月4日(木)	NETの一症例 【近畿大学医学部奈良病院】	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良医大附属病院 ・近大奈良病院 ・国保中央病院 ・済生会中和病院 ・大和高田市立病院
第3回	10月6日(木)	放射線壊死のペバシズマブによるマネージメントについて 【天理よろづ相談所病院】	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良医大附属病院 ・近大奈良病院 ・天理よろづ相談所病院 ・国保中央病院 ・済生会中和病院
第4回	11月24日(木)	多彩な病態を呈した症例 【奈良県総合医療センター】	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良医大附属病院 ・奈良県総合医療センター ・市立奈良病院 ・近大奈良病院 ・国保中央病院 ・大和高田市立病院
第5回	1月19日(木)	リンパ節腫脹いろいろ 【市立奈良病院】	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良医大附属病院 ・奈良県総合医療センター ・市立奈良病院 ・近大奈良病院 ・済生会中和病院 ・大和高田市立病院
第6回	3月23日(木) 予定	【国保中央病院】	※化学療法分科会 同時開催予定



11月24日
Webカンファレンスの様子

奈良県がん診療連携協議会 放射線療法分科会

第1回分科会(メール会議)

本分科会の目的は、県内の放射線治療状況等に関する情報を共有して、連携体制を強化し、県民により適切ながん診療を提供することである。

平成 29 年 3 月 2 日 (木)、第 1 回分科会をメール会議で開催した。
(以下は今回の会議の概要で、各論の詳細は委員間で共有している。)

放射線機器更新、増設が見られる一方で、放射線治療を終了する施設も散見され、放射線治療が均てん化から集約化へ多少移行しつつあると思われ、連携体制の見直しも必要になっている。

1) 分科会委員については、昨年度までの奈良県放射線治療地域連携協議会委員を基本に検討を行い、以下のように決定した。

平成 29 年 3 月現在 分科会委員	(敬称略)
奈良県立医科大学附属病院 放射線治療・核医学科	長谷川正俊
奈良県総合医療センター 放射線科	堀川典子
天理よろづ病院 放射線部	根来慶俊
近畿大学奈良病院 放射線科	岡嶋 馨
済生会中和病院 放射線科	橋本泰年
高井病院 放射線科	井上和也、長友康
高田市立病院 放射線治療科	横川正樹
市立奈良病院 放射線科*	八巻香織
奈良医療センター*	浅川勇雄

2) メール会議のみでなく、調整が可能なら、集まって会議をすることも提案された。

3) 県内で、強度変調放射線治療 (IMRT) を実施している施設は 4 施設、小線源治療 (子宮、前立腺等) 可能な施設は 2 施設だった。塩化ラジウム 223 (ゾーフィゴ) も既に 3 施設実施可能となった。なお、IMRT については、他にも実施を検討中の施設がある。

3) 大和郡山病院：平成 28 年 12 月までで放射線治療を終了した。

その他にも、近日中の放射線治療終了を検討中の病院がある。

4) 奈良県立医科大学附属病院：画像誘導放射線治療、強度変調放射線治療に対応可能なリニアック 4 台、画像誘導小線源治療、ヨード永久刺入療法等、各種の核医学治療等、最先端の放射線治療のほとんど (ただし、粒子線を除く) が可能となった。放射線治療患者数は一時やや減少し、さらに多少の変動もあるが、最近ほぼ横ばい状態で、南奈良総合医療センター等から紹介が徐々に増加しつつある。なお、強度変調放射線治療の比率が高くなっている。

5) 奈良県総合医療センター：2018 年 4 月新病院に移転予定であり、放射線治療が一時休止となる可能性がある。新病院では、リニアックが (更新、増設で) 2 台体制になる予定である。

6) 天理よろづ相談所病院：一般病院で可能な放射線治療に関しては、幅広く提供する方向で考えている。最大の悩みは、放射線治療設備が旧棟に存在し、新外来棟・新入院棟から 300-400m 離れていることで、外来患者にも、入院患者にも大変な不便を強いている。

7) 近畿大学医学部奈良病院：2 年前くらいから症例数が微増にとどまるようになった。しかし現状ではまだマンパワーのほう足りない。

8) 済生会中和病院：強度変調放射線治療について検討中である。

9) 高井病院：陽子線治療装置を導入中で、4 月にはサイクロトロンが搬入され、来春の治療開始予定で準備を進めている。来年、ガンマナイフのコバルト交換予定 (工事期日の詳細は未定) で、一時期ガンマナイフが治療休止状態となる。

10) 高田市立病院：強度変調放射線治療は、医師数が揃えば何時からでも可能である。11) 市立奈良病院：リニアックを最新型 (画像誘導放射線治療、強度変調放射線治療対応) に更新予定である。なお、治療はなるべく中断しない計画である。